



人を惹きつける、 魅力的な観光スポット

関連する SDGs のゴール



岐阜かかみがはら航空宇宙博物館「愛称：空宙博」(下切町)

「航空」と「宇宙」に関する、国内最大級の専門博物館です。敷地内には、34機の実機（実機展示数は日本一）と9機の実寸大模型を展示しており、国内に現存する唯一の「飛燕」の実機や、航空シミュレーターによる操縦体験、国際宇宙ステーション（ISS）日本実験棟「きぼう」の実寸大模型など、見どころがいっぱいです。先人の空・宇宙への憧れ、挑戦の物語を伝え、子どもたちにチャレンジスピリットと感動を与える博物館です。

（注）新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中止となった事業もあります

河川環境楽園（川島笠田町）

敷地内には、世界最大級の淡水魚水族館「アクア・トト ぎふ」のほか、大観覧車を備え、バーベキューや水遊び、地元のグルメが楽しめる「オアシスパーク」、さまざまな自然・環境体験ができる「木曽川水園・自然発見館」など、多彩な施設がそろっています。

東海北陸自動車道のパーキングエリアから利用できるというアクセスの良さもあり、週末は大勢の家族連れなどでにぎわいます。



学びの森プロムナード（那加雲雀町）

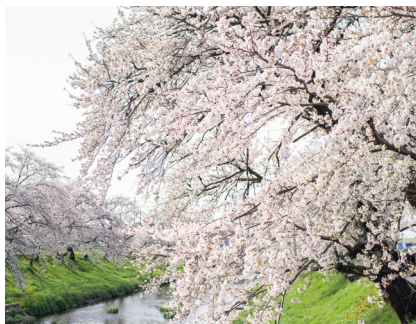
敷地面積約6haの学びの森にある約200mのイチョウ並木は「学びの森プロムナード」の愛称で親しまれ、黄葉のシーズンになるとフォトスポットとして人気です。

11月の初旬にイチョウの葉が色づき始め、中旬から下旬にかけて並木全体が黄色く染め上げられます。落葉が始まると、黄色い葉が辺り一面を覆う「黄色いじゅうたん」を見ることができます。

イルミネーションのスポットとしても親しまれており、12月上旬から2月中旬にかけて約15万球の白色電球により彩られます。期間中は昼間のにぎやかな雰囲気とは対照的に、夜間は落ち着いた魅力を演出しています。



博物館に宿場、桜…豊かな観光資源



各務原市内には、他にもさまざまな観光スポットがあります。

川島竹早町にあるエーザイ株式会社川島工園内の「内藤記念くすり博物館」は、くすりと医学に関する国内有数の博物館。約700種の薬草類を育成する薬草園も備えています。

市東部の鵜沼西町には、江戸時代の宿場町の面影を今に伝える「中山道鵜沼宿」があり、江戸から数えて52番目の宿場町や復元された脇本陣などを見ることができます。

他にも、「日本さくら名所100選」に選ばれた新境川堤の「百十郎桜」や、市北部に連なる「各務原アルプス」など、数多くの名所がそろっています。

市を代表するご当地グルメは、「各務原キムチ」。市特産のニンジンと松の実を使用したキムチで、「各務原キムチ鍋」や、さまざまな関連商品が登場しています。

多彩なイベントで市の魅力を発信

桜まつり（3月下旬～4月上旬）

各務原市を代表するイベント、「桜まつり」は、春の風物詩となっています。期間中は、グルメ満載の「桜まつりマーケット」や、さまざまな団体が日ごろの活動の成果を披露する「桜まつりステージ」など、多彩な催しが盛りだくさん。会場となる市民公園や、新境川堤の「百十郎桜」一帯は、市内外から訪れた大勢の花見客でにぎわいます。

おがせ池夏まつり（7月下旬）、

日本ライン夏まつりロングラン花火（8月1日～10日）

各務おがせ町にある「^{おがせ}瀬池」。ここで開催される夏まつりでは、地元小学校の児童による「鯉みこし」が展示され、提灯で飾られた「舟やま」の下で、子どもたちが笛や太鼓を打ち鳴らします。そして、色とりどりの花火が夏祭りを盛り上げます。

他にも、毎年8月1日～10日に木曽川河畔で連日打ち上げられる「日本ライン夏まつりロングラン花火」も、夏の風物詩の一つです。



各務原マーケット日和（11月3日）

毎年、11月3日の「文化の日」に、学びの森一帯で開催している「各務原マーケット日和」。さまざまなお店が出店するマーケットを楽しむだけでなく、まちと「もっと深く関わりたい」という若者が増えるきっかけをつくり、まちと人をつなぐ入り口となっています。



中山道鵜沼宿まつり（3月）

市が誇る歴史地区で開催される、「中山道鵜沼宿まつり」。歴史の趣ある会場で、伝統の^{きやり}木遣音頭や木曽川鵜飼の実演、グルメ横丁など、さまざまな催しを楽しめます。

